

2024 年度成果報告会を開催しました

2025 年 2 月 12 日(火)から 14 日(木)にかけて、東京大学医科学研究所 国際共同利用・共同研究拠点の 2024 年度成果報告会をオンラインにて開催いたしました。本報告会は、今年度も国内外研究ネットワークのハブとしての機能強化を目指す3つのコア研究領域(領域1:先端医療研究開発、領域2:ゲノム・がん・疾患システム、領域3:感染症・免疫)における研究成果を広く共有する機会となりました。

初日となる 2 月 12 日は、医科学研究所所長・中西真教授による開会の辞に始まり、領域1・2 より各 4 件、計 8 件の研究成果が発表されました。ウイルス免疫療法開発やゲノム解析をはじめとする最先端の知見が共有され、活発な議論が交わされました。

2 日目の 2 月 13 日は、千葉大学真菌医学研究センターとの合同成果報告会として開催され、同センターの米山光俊教授による開会のご挨拶の後、東京科学大学の石野智子教授による特別講演「マラリア原虫のユニークで狡猾な感染機構の解明を目指して」が行われました。講演後には、研究領域を超えた多様な視点から活発な質疑応答が行われました。続く研究発表では、千葉大学から 4 件、医科研・領域3より 4 件の発表が行われ、参加者、座長、発表者の間で白熱した討論が繰り広げられました。

最終日の 2 月 14 日には、中国、イギリス、オランダ、ドイツより 6 名の研究者が登壇し、各領域における国際共同研究の成果が紹介されました。質疑応答には、教授陣のみならず若手研究者や受入教員の研究室に所属する学生も加わり、活発な意見交換が行われました。

3日間を通じて、国内外より延べ 252 名(初日 75 名、2 日目 65 名、3 日目 112 名)が参加した本報告会は、医科学研究所副所長・川口寧教授による閉会の辞によって締めくくられ、昨年度に引き続き、研究機関や分野の枠を超えて様々な視点が交差する、貴重な研究交流の場となりました。